



### 所長コメント

高知は広島からバスで4時間、ちょこっと行くにはいいところである。広島より少し暖かい。1月中旬に訪れてみた。

高知城は関ヶ原の戦いで徳川方についた山内一豊がはるばる静岡県の掛川から来て、築城した。東西を河には挟まれ、幾度となく水害に遭ったようである。地形的には三角州にある広島城と似ている。広島城と違いは空襲に遭うことなく、江戸時代の形をそのまま残していることである。そのため国の重要文化財になっている。

元々高知を治めていた長宗我部元親の子・盛親は関ヶ原

で豊臣側に付いたので、改易(現職者の任を解かれ新任者を補佐する)させられた。

そのため山内家の家臣が「上士」、長宗我部家の家臣が「下士」と呼ばれたようである。下士を懐柔し藩の兵力とするために新田を開発させて「郷士」という身分を与えた。

大河ドラマで出てきた坂本龍馬や武市半平太は下士であり、郷士の子であった。岩崎弥太郎は貧困のため郷士の権利を売った下士以下の浪人の子だったようだ。

そんなことを想像しながら、鯉のたたきと舌鼓を打ち、高知の地酒を楽しんできました。

## 社長の仕事 税理士 大場史郎

昨年から石油価格の下落が続いている。原因として大口の需要家である中国の景気停滞、さらにかつて世界の石油輸入国であったアメリカがシェールオイルを掘り出し、輸入する必要がなくなったこと、そればかりか今度は余った分を輸出に振り向けることだ。また原爆開発をしているということで西側諸国から長年経済制裁を受けていたイランが制裁を解除され、いよいよ本格的に生産を始める。そのような理由で需要と供給が大きく崩れようとしている。

1バーレル(約160リットル、ドラム缶は200リットル)が120ドルを超えていた価格が今や40ドル以下に下がっている。原油の輸出に依存していた、中東諸国やロシアなどは経済がたいへんな状態になっている。下がっているのは原油だけでなく、鉄鉱石などの原材料もだ。

その結果大金持ちのサウジアラビアなどが海外に投資していた株などを売って、国内に引き上げるものだから、株価が下落する。負の連鎖である。

一方恩恵を受けているのはガソリンなど燃料に使う航空、運送、海運などの物流や旅客業者、更には

電力会社、化学企業などがあげられる。

さて、今年の景気はどうなるのであろうか、今まで爆買いで世界経済をリードしてきた中国もどうやら青年期を終えて、壮年期に入ったようである。今後は同じく12億の人口を抱えるインドが次の主役になるのだろうが、もう少し時間がかかりそうだ。トヨタがインドで最も車を売っているスズキに近寄るのも将来の布石だ。

当事務所の関与先にマツダ、シンコー(船舶用ポンプで世界ナンバーワン)、日本製鋼所などの下請け企業も数社ある。現在は絶好調の決算内容だが、ぼちぼち元請の輸出に陰りが見えてきそうだ。

国内は壮年期から老年期に入っているのだから、買い替えはあっても、買い増しは考えにくい。

その中で政府はアベノミクスで緩やかなインフレを起こそうとしている。それに黒田日銀総裁も同調している。言い換えれば川の流りに逆らって上っているようなものである。

今後は多くの設備投資をするより、税金を払ってでもキャッシュを持っておく方がいいように思える。